

海運 <不定期専用船>

2020年9月3日

加古川で子ども向け海の学習会 旭海運、地域密着のE S G活動推進



旭海運は8月23日、兵庫県加古川市の加古川市海洋文化センターで、地域の親子を招いて「海の学習会」を開催した。地域の親子連れ23人が参加した。加古川市は旭海運の荷主である神戸製鋼の製鉄所が所在し、同社のフラッグシップ“旭丸”をはじめとする鉄鋼原料輸送船が寄港している。今回の催しに参加した竹之下副社長は「ゆかりの深い加古川市で、E S G（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを行うことが重要と考えている。この一環として教育活動を行を実施した」と語り、神戸製鋼のインダストリアルキャリアとして地域との関わりが深い同社ならではのE S G活動を展開する考えを示した。

学習会では、樟脳が昇華する性質を利用して水面を進む「樟脳船」を子どもたちが作成し、実験を行った。竹之下副社長は「子どもたちが海と船に興味を持ってもらえる機会になったのではないかと。地元で寄港する旭海運にも親しみをもってもらえれば」と語った。今後も加古市などで学習会を継続することを検討している。

旭海運は同社ウェブサイト上に「ふねきつず」というコーナーを開設。同社が運航するばら積み船の特徴や航海の様子、船員の仕事について、動画やイラスト付きで解説している。竹之下副社長は「サイトの製作は社員が手作りで行った。こういった活動に直接関わることで、若

手も含め多くの社員にE S Gの取り組みの意味を理解してもらいたい」と活動の意義を語った。



海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.